

### エッジAIってなに？

スマート機器などIoTデバイスが進化する過程で「エッジAI」という言葉を耳にするようになりました。クラウド側ではなく端末側である程度のAI処理を行わせることにより、レスポンスが早くなったり、情報漏洩のリスクを減らせる等のメリットが見込めます。組み込み機器でのAI処理のニーズが増加するなかで、「導入したいけど構築は容易にしたい」、「小型化・消費電力にもこだわりたい」といった悩み事が出てくるようになりました。

本ウェビナは150名を超える方々にご参加いただき、エッジAIの導入を検討されている方にAIの概要から応用事例までを手軽に試せるソリューションの実演を含めて解説いたしました。

### エッジAIの市場動向と搭載事例

これまでのAI処理はクラウドでデータを集中管理していました。市場もクラウドを扱う大規模なデータセンターが中心でしたが、エッジAIの出現によってAIにおける市場はデバイス側まで拡大しました。国内のエッジAIソリューションの市場規模は2021年度から2026年度の5年間で400億円を超える規模になると推測されています。

エッジAIは様々な場所で活用されています。スマートスピーカーやロボット掃除機、エアコンなどの家電製品は生活をより豊かにしてくれます。産業機器では、外観検査や異常検知、産業用ロボット等人間に代わって作業が行えることから人件費の削減や品質向上などに一役買っています。

### 課題とAIソリューション

急速に成長したエッジAIには課題があります。

#### [エッジAIの課題]

- ① 開発経験が少ない
- ② AI開発に時間がかかる
- ③ 組み込みで出来る？
- ④ 活用方法がわからない

解決策としてルネサスが用意したのがリアルタイム分析用途向けのReality AIとVision AI用途向けのRZ/Vシリーズの2つのソリューションです。どちらも開発キットが準備されており、容易に導入することが出来ます。

本ウェビナではRZ/V2Lを用い、学習済みAIアプリのインストールから動作までのデモを行いました。パソコンに表示した写真から動物の種類を判定するアプリケーションで手軽さと判定までの処理の速さを実感いただきました。

#### ■ 本日の登壇者 ■



株式会社リョーサン  
デバイス第一事業本部  
技術支援部

熊谷 貴紀 氏



#### エッジAIとは？

	リアルタイム分析 Reality AI	Vision AI RZ/V
開発経験が少ない	ツール側で高度な信号処理とAI技術をサポート	専門知識や開発ツールは必要無し
AI開発に時間がかかる	自動でAIモデルを生成	AIアプリケーションモジュール
組み込みで出来る？	小メモリのMCUへ実行可能	DRP-AIにより低消費電力を実現
活用方法が分からない	特定用途向けソリューション準備	数十種類のユースケースを準備

#### Reality AI と Vision AI

[他記事、ウェビナ情報はこちら](#)



エンジニアによりそうマガジンサイト